総合計画（素案）　市民説明会　開催記録

平成 23 年度からスタートする新しい総合計画（素案）について、市民の皆様に情報提供するとともに、市民の意見収集と意見交換を目的に、市内 5 地区で市民説明会を開催しました。

各地区における意見・要望など開催記録については下記のとおりです。

◆北広島団地地区

・会　場　　北広島団地住民センター　研修室１・２
・日　時　　平成 21 年 11 月 11 日（水）　18 時から 20 時 10 分
・参加者　　18 名（男性 16 名、女性 2 名）
・市側出席者　高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、
　　前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

開催風景

番号	市民の意見・要望	市側の意見
1	「成長都市」とあるが、北広島団地の造成時なら理解するが、現在はほとんど成長していないのではないか。「成熟都市」とするなど置き換えてはどうか。「成長都市」という言葉遣いについて審議会で検討してほしい。	人口が増加することだけをもって「成長都市」とは考えていない。様々な面で豊かになるという意味を込めている。
2	今後 10 年間の総合計画の中で、特に重点を置いて何を実現させていくのかを知りたい。	重点プロジェクト、数値目標、人口に関しては今後十分に議論し、みなさんにお示ししたいと考えている。再度の説明会は難しいが、パブリックコメントを実施する予定でいる。
3	数値目標等は重要だと思うので、改めて説明会を開いてほしい。	
4	人口に関しては、他機関の推計を単純に用いるのではなく、市としてどうしていくのかしっかりとした議論が必要ではないか。	
5	「自然と創造の調和した豊かな都市」が、昭和 45 年から総合計画の一貫したテーマであるなら、内容も一貫しているのか。	内容については時代とともに変化している部分はあるが、市民生活の中で文化を創造するとか産業の面から協働して新たなものを作り出すなどといった視点から、このテーマを掲げていきたい。
6	市民参加や協働など、時代の変化をとらえた視点を総合計画に盛り込んでいくべきである。	
7	産婦人科がないことが、若い人達にとって住みにくい理由の 1 番ではないか。	大きな課題だと認識している。次の総合計画を待たずに進めて行きたい。
8	医療体制をしっかり確立することにより、少子化を防ぐことができるのではないか。	

番号	市民の意見・要望	市側の意見
9	団地内の小学校統合に続いて、今後中学校の統合について案や考えがあるのか。	小学校で統合を経験した児童が中学校でも統合を経験するのを避けることなどから、すぐに実施する予定はない。
10	小学校統合後の跡施設利用の検討はどうなっているのか。	市の内部に委員会を設置して検討している。また、今後説明会などを通して市民の意見を聞くこととしている。
11	自然や緑が多く団地内のトリムコースも素敵で、北広島市はいいまちだと思っている。	
12	自主防災は非常に大切である。市では自主防災組織について力を入れていないのではないか。	自主防災の組織化はあまり進んでいない。何が支障となっているか検討して、自主防災の組織化を図りたい。
13	各町内会で設置しているゴミ箱は、統一されてなく美観的にも良くないと感じるが、市は指導しないのか。	ごみステーションは町内会ごとに管理・運営されている。ゴミ箱の規格を統一する考えは現在のところないと認識している。
14	ごみの個別収集については、実施されるのか。	現在検討している。
15	ごみ有料化のお金はどう使われているのか。	ごみ袋の作成費用や集団資源回収奨励金などに充てられている。
16	北広島市には雇用の場が不足している。	市内にはある程度働く場はあると認識しているが、雇用の場の確保は重要であると考えている。
17	北広島市の主な経済基盤は何か。	昔は純農村であったが、現在は農家戸数も減少している。工業団地は、地の利から新聞などの印刷系や流通系が多い。
18	輸入に依存しない農業を行政が推進していくべきである。	
19	大曲に流通企業の集積が進んでいるが、今後さらに立地を見込めるのか。	大曲の工業団地は現在完売している。輪厚地区で新たな工業団地の造成を進めている。
20	観光に力点を置き、市内に見所をつくるなど、ベッドタウンの発想を転換するべきである。	
21	大曲工業団地の開発経過を説明してほしい。	大曲第 3 工業団地は平成 3 年に着手しており、面積は 50.7ha。現在は完売している。

番号	市民の意見・要望	市側の意見
22	北広島市の中心核はどこになるのか。各地区が分散しているのは事実だが、まちづくりとして力が入っていないように感じる。	まちの形成が国道36号からの輪厚･大曲、国道 274 号の西の里、ＪＲ北広島駅を中心として発展してきた東部・北広島団地と、5つで形成されている。現在の総合計画ではＪＲ北広島駅から中央地域の一帯を中心的な地区として位置づけており、商業・業務機能や交通結節機能、芸術文化ホール、図書館などがあり、にぎわいはできつつあると認識している。
23	ＪＲ北広島駅東口の空き地の大口地権者は誰なのか。	民間の所有地である。
24	市職員は事なかれ主義で仕事をしている。まちづくりのため全力投球してほしい。	
25	人口6万人程度に対して約500人の市職員数は、バランス的に見てどうなのか。	他市との一律の比較は難しいが、一般職員数の比率をみると、千人あたり6.1人で、道内では少ないほうから5番目である。
26	庁舎は駅前に移転したほうが、市民は利用しやすくなる。	11月1日の広報で市民意見を募集している。場所については、「新たな用地確保に関しては資金的負担が大きい」、「現在の第3庁舎を引き続き活用できる」などの理由から現在地が適当と考えている。
27	今後、国や北海道からさまざまな仕事が移譲されてくると思うが、どのような考え方をもっているのか。	道州制などが導入されると、市町村ではきめ細かい市民サービスを担うことになっていくと考える。今後も十分動向について注視していく必要がある。
28	北広島市は情報公開が不十分だと思う。	情報公開は重要であると認識している。
29	市役所の窓口で非常に不愉快な対応をされたことがある。	職員が市民の皆様に不愉快な思いをさせたいうことであればお詫び申し上げたい。
30	総合計画の策定にあたり外部委託しているとのことだが、何を委託しているのか。	専門的な独自の人口推計や議事録の作成などを委託している。

◆西の里地区

・会　場　西の里会館　集会室

・日　時　平成 21 年 11 月 12 日（木）　18 時から 19 時 30 分

・参加者　11 名（男性 8 名、女性 3 名）

・市側出席者　高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、
前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

開催風景

番号	市民の意見・要望	市側の意見
1	人口計画については、今後具体的な数値が示されるのか。	人口に関しては今後十分に議論し、みなさんにお示ししたいと考えている。
2	地域ごとの具体的な施策などは今後盛り込まれる予定なのか。	今のところ新しい計画ではどのように取り扱うかは未定だが、個別の政策、施策の中でも地区に関係する部分は具体的な記載をしていきたいと考えている。
3	素案に記載されている施策の具体的内容について今後どのように実施されていくのか。	推進計画を策定し、事業を実施していく。常にそのときから 3 年間でやる事業をその都度検討していくこととしている。
4	数値目標について、具体的な施策と連動する形になるのか。	基本計画の中に入れていきたいと考えているが、指標のたて方については今後検討していきたい。
5	北広島市は環境が良いと言われているが、西の里では廃棄物を置く場所等が増えてきている。市の強制力により排除できないのか。	解決するような方法を今後検討していきたい。
6	島松駅逓所やクラーク像など歴史的意味を持つ資源を活用できるのではないか。	資源を発掘し、北広島市を市外にＰＲすることが大事だと思う。今後検討していきたい。
7	道の駅は人を呼び込む資源になると思うが、整備計画はないのか。	
8	市内のどこへでも行けるような交通システムを何年も前から要望しているが実現しない。大曲の夢プラザや大型店舗などに行ってみたいが、車がなければ行けない。具体的にどのようなことを検討しているのか。	地域交通システムに関する提言を受けて、法律に基づく協議会を設置する予定である。また、国の支援を受けて行う実証実験の結果などを検証し、交通体系づくりに着手したいと考えている。
9	ＪＲ上野幌駅周辺の活性化とあるが、あの近辺だけを開発しても市全体の魅力向上にはつながらないだろう。	

番号	市民の意見・要望	市側の意見
10	大曲椴山線の道路整備を早急にしてもらいたい。西の里は札幌に近く、離れ小島のような地域となっているのでこの路線の整備を何とか進めてもらいたい。	大曲椴山線の整備については課題として認識している。工事費が多額であり、他の路線の整備状況からもいますぐに対応するのは難しい状況である。
11	全市的なイベントのときなど、市内を循環する交通手段を用意してもらいたい。	全市的なイベントにおける循環バスは、検討していかなければならないので、担当セクションに伝える。
12	国道 274 号沿線の奥で不法投棄などが進んでおり、荒れているように感じる。このあたりは道路が複雑で行き止まりがあるなど活用が難しいとは認識しているが、都市計画について何か考えはあるのか。	土地条件があまりよくない場所であるので、利用自体が難しい地域であることを理解していただきたい。住宅地としての土地利用の拡大は考えにくい状況にある。
13	施策の実施にあたっては、厳しい財政状況のもと、優先順位をどうするかが大事だと思う。	
14	事業の実施にあたっては、色々な知恵や経験を持っている市民が市内にはたくさんいるので、市役所だけでやろうとせず、そういう人たちの力を借りていけば良いと思う。	地区にいる豊富な人材を活用してまちづくりを推進していきたいと考えている。
15	素案を広く市民に周知する方法は何か検討しているのか。説明会への出席が少ない。出席されていない人は、他人事のようになってしまうのではないか。	素案の周知については、ホームページや公共施設での閲覧が可能となっている。今後も市民が参画できる機会を提供しながら、一緒に計画づくりを進められるよう配慮していきたい。
16	市民アイデア募集などをしたことはあるか。	市民アイデア・提言を募集し、その結果は素案に盛り込んでいる。
17	策定にあたっては、一人でも多くの市民が興味を持ってくれるように工夫をしてもらいたい。	

◆西部地区

・会　場　農民研修センター　研修室２

・日　時　平成 21 年 11 月 13 日（金）　18 時から 19 時 20 分

・参加者　10 名（男性８名、女性２名）

・市側出席者　高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、
前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

開催風景

番号	市民の意見・要望	市側の意見
1	人口推計については、「着実に成長しつづけるまち」という都市像が掲げられており、伸びる方向で考えていると思うが、どの程度伸びると考えているか。	国立社会保障・人口問題研究所の推計結果はある程度参考になると考えているが、現在の人口は横ばいまたは減少してきている。実際の人口と推計値に差が出始めている。今後新しいデータを用いながら独自に推計したいと考えている。政策的な人口増加については今後検討していきたい。
2	輪厚地区の人口については、どう考えているのか。	市全体の人口の大枠ができていないので、各地区の人口はまだできていない。
3	輪厚仁別線から国道36号の千歳方面への右折にとても時間がかかる。農家の農作物の出荷に際して大きく影響している。時差式の信号機などで対応してもらいたい。	担当セクションに伝える。
4	大曲の大型商業施設のような形でまちを発展させようとすると、自然を破壊することにつながる。市としての考えはどうか。	開発を進めてほしくない地域については、開発できないように規制しており、地域の自然環境や生活環境を守っていく考えでいることを理解していただきたい。
5	バスがなく不便な状況が40年前からまったく改善されていない。このような状況ではこの地区は発展しない。この地区の路線バスなどについて考えてもらいたい。	地域交通システムに関する提言を受けて、法律に基づく協議会を設置する予定である。また、国の支援を受けて行う実証実験の結果などを検証し、交通体系づくりに着手したいと考えている。
6	コミュニティバスも新たな交通システムの検討の中に含まれているのか。	事前に検討項目を限定して議論を開始するわけではない。
7	輪厚パーキングエリア周辺の開発については中止になったという理解でよろしいか。	地域再生計画に関しては、内閣府と協議の上、再整備期間を 2 年間延長することとなっており、市としては改めて再整備計画の内容を検討したいと考えている。

◆東部地区

・会　場　中央会館　集会室

・日　時　平成 21 年 11 月 18 日（水）　18 時から 19 時 45 分

・参加者　9 名（男性 8 名、女性 1 名）

・市側出席者　高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、
前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

開催風景

番号	市民の意見・要望	市側の意見
1	時代の変化に即応するため、3 年ぐらいで計画の進捗状況などのとりまとめをしてもらいたい。	計画の進行管理、総括については定期的にチェックするべきという意見はそのように対応したいと考えている部分である。
2	計画期間中の財政の見通しはどうなのか。	現状では他市と比較すると決して悪くはないが、良い状態とも言えない状況であり、今後も厳しい状況が考えられる。
3	時代の変化が激しい中、10 年間の計画期間は長いと感じる。5 年間の計画にしてはどうか。	基本構想の部分については、まちづくりの目標として 10 年間の期間設定は問題ないと考えている。基本計画については、時代の変化などを考えて状況に応じて 5 年で見直す可能性があると考えている。
4	人口についての考え方はどうなのか。	国立社会保障・人口問題研究所の推計では、人口はこの 10 年間は増える推計となっている。しかし、現在の人口をベースに独自に推計した結果をみると今後減る可能性がある。
5	重点的に考えたのはこういう部分だというところがあると思うがどうか。	重点プロジェクトについては今後検討していくこととしている。
6	人口や重点プロジェクトができてから、改めて説明会などを開いてほしい。	再度の説明会は難しいが、パブリックコメントを実施する予定でいる。
7	子育て支援センターについては、将来的なことを考え計画的に設置してもらいたい。	
8	快適な生活環境の分野では、現総合計画の中で達成されていないものがたくさんあると感じている。東部地区は 10 年前と何も変わっていない。	達成されていないものも一部あるとは思うが、健康、福祉、環境、教育など様々な視点からまちづくりを進めてきている。

番号	市民の意見・要望	市側の意見
9	ＪＲ北広島駅周辺整備では、市の顔づくりをするとしているが、何もできていないのではないか。	駅東口のマンションや公共駐車場、西口の公園整備、エルフィンパークを利用した市民活動などを実施してきている。
10	ＪＲ北広島駅周辺の整備は、芸術文化ホールができたくらいで、商店街などほとんど形成されていない。次期総合計画の中にも施策があるがどのように考えているのか。	駅周辺の民間所有地の活用方策を検討していきたい。地区計画の変更など議論しているところである。
11	市役所庁舎にはどの程度の予算を見込んで、どのようなスケジュールを考えているのか。もう少し明確にできないか。	どの程度の費用が必要かは明確になっていない。新しい総合計画期間中に庁舎を整備するということで記載している。
12	市役所庁舎の建替え場所は現在地でほぼ決定のようだが、もう少し幅広く考えるべきではないか。土地はたくさんあるのだから、無理に高い建物を建てる必要はないのではないか。	11 月 1 日の広報で市民意見を募集している。場所については、「新たな用地確保に関しては資金的負担が大きい」、「現在の第 3 庁舎を引き続き活用できる」などの理由から現在地が適当と考えている。
13	現計画の評価・総括についてどう考えているのか。	現計画の点検について実施し、課題や今後の方向性を整理した。それらをベースに新しい総合計画の素案を作成している。
14	総合計画と他の計画との整合性はどうなっているのか。	総合計画にある理念が、すべての計画の最上位にありそれに沿って他の計画が策定されているので不整合は出ないと認識している。しかし、計画期間のずれなどにより表現などは若干の差異が見られる場合があるかもしれない。

◆大曲地区

・会　場　夢プラザ　サークル活動室 2・3・4

・日　時　平成 21 年 11 月 19 日（木）　18 時から 20 時

・参加者　12 名（男性 8 名、女性 4 名）

・市側出席者　高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、
前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

開催風景

番号	市民の意見・要望	市側の意見
1	10 年計画となっているが、行政は目の前の課題をしっかりと把握しているのか。	それらを把握した上で、毎年の事業を実施している。不足している部分については今後把握に努めていきたい。
2	「希望都市」、「交流都市」、「成長都市」という都市像のできた背景や経緯をまとめる必要があるのではないか。	審議会の議論の中で、北広島市がめざす方向性を端的に示すキャッチフレーズが必要だろうとしてできたものである。
3	いきいきとした市民の生活とは、どのようなイメージで考えているのか。	それぞれのライフスタイルにあった生活を送ることができるということを想定している。
4	街並みはとてもきれいだが、子どもたちなど、市民がいきいきとしていない気がしている。	
5	北広島市には専門病院が少なく、あまりいい病院がない。	
6	子育てのしやすい環境整備をするとあるが、どう考えているのか。	素案の第 1 章第 3 節の子育て支援の充実に記載しているものが示せるものである。
7	大曲地区では保育所の待機児童が多い。今後も子どもが増えることが予想されるので、大曲地区に新しい保育所を建てることは考えていないのか。	新しい施設を増やすということはいまのところ考えていないが、大曲地区においては定員の不足があるという状況は理解しているので、今後検討していく必要があると認識している。
8	大曲地区の学童クラブ、保育所の不足については、10 年経過しても改善されていないのではないか。財政的に苦しいことは理解するが、ニーズがある場所でそのままの状態というのはおかしいのではないか。	市としてできる範囲で新設、増設をしてきている。施設を建設することは費用的な面か厳しい状況である。今後も様々な方策を検討していきたいと考えている。

番号	市民の意見・要望	市側の意見
9	福祉バスは、どういったときに利用することができるのか。	60 歳以上の団体、障がい者団体などが利用できることとなっている。利用希望団体が多く予約でいっぱいの状況である。
10	地域の高齢者が、近くのスーパーなどに買い物に行けるようなバスを週に１度でもいいから走らせることはできないか。	地域交通システムに関する提言を受けて、法律に基づく協議会を設置する予定である。また、国の支援を受けて行う実証実験の結果などを検証し、交通体系づくりに着手したいと考えている。
11	高齢者の積極的な外出を促す施策として、交通費の助成を行ってもらいたい。	まず公共交通システムの検討を行い、助成についてはその後の検討となると認識している。
12	羊ヶ丘通沿線の大曲幸地区はにぎやかだが、国道 36 号沿線はとてもさびしくなっている。何か取り組む考えはあるか。	既に市街化区域として用途が定められているので今の段階で用途変更などは考えていない。商工業の振興の面で検討していく必要はある。
13	観光の振興についてどう考えているのか。	これからの観光のあり方について検討していく必要がある。市内に眠っている観光資源を発掘し活用していきたいと考えている。
14	除雪は、住宅地では 1 車線分しか空けていないが、業者との契約はそのようになっているのか。	1 車線分の契約ではなく、往復するような契約としている。現在の除雪方式は掻き分け除雪なので、両サイドに雪が溜まっていくことを理解していただきたい。
15	市職員の態度にたいへん憤慨している。職員に対する教育が甘いのではないか。	職員の資質等については、しっかりと現状を認識し、部長会議などで報告させていただきたい。
16	机上の空論ではなく、市職員は現場に足を運んで仕事をしてもらいたい。	
17	市役所内部での横のつながりがないのではないか。	
18	北広島市や市役所は新しいことを受け入れないまちだと感じている。	
19	市外から来た人を受け入れないまちだという印象を持っている。	